

2019年度しあわせ研究

日本語教育のしあわせのカタチ

研究員 堀井恵子



COVID-19(新型コロナウイルス)の感染拡大で、世界中が未曾有の危機への対応に追われている。感染爆発防止のための都市封鎖(ロックダウン)、渡航禁止、入国拒否、自粛など、これまで使われなかったことばが日々飛び交っている。本学も卒業式・入学式の中止、新学期の授業はできるだけオンラインでというかつてない急な対応に臨んでいる。学科では、急遽、ZOOM 勉強会を立ち上げ非常勤の先生方を含め総力を挙げ ICT リテラシーを身につけていて、これは新たな教育への繋がりともなり、大いに力強いのだが、一方で、入国拒否で日本に戻れなくなったり、日本語の情報が十分に分からず不安だというメールを送ってくる留学生も少なくなく、まずは安心するよう返信を送っている。

日本語教育に携わって 35 年、外国人に日本語を紹介、使えるようになるよう支援する仕事は大変興味深く、育児の傍ら勉強をして日本語教師の資格を得た。折よく、「留学生 10 万人計画」に伴い、武蔵野大学でも留学生を増やすため教員が必要というご縁があり、平成元(1989)年度、非常勤講師として日本語科目を担当することになった。それから令和元(2019)年度まで、「留学

生 30 万人計画」が達成されたように、また、本学の発展とともに、当初 5 人だった留学生は現在、全学で 700 人に増加している。この間、すでに上級の日本語力を持つ留学生が、「大学での学びを全うする」ためのアカデミック・ジャパニーズ教育の研究と実践、留学生が「日本語を使ってキャリアを高める」ためのビジネス日本語教育の研究と実践を行い、また、留学生にはできるだけ家にも遊びに来てもらい、ライフワークは「留学生が幸せになること」と言ってきた。

そんな中、「しあわせ研究」助成のおかげで、カンボジア、ラオス、タイ、インドネシアの国立大学の先生方とビジネス日本語教材作成のための共同研究を行うことができた。5 か国語による教材作成はその途に就いたところだが、並行して各大学との協定も結ばれ、各大学から本学への留学、本学から各大学へのインターシップと学生の交流も徐々に実現し、海外の日本語教育とのつながりが強化された。

日本における日本語教育の重要さは意外と理解されていないのだが、日本語を学ぶことで少しでも多くの人が豊かな人生が送れるように、卒業留学生とも連絡を取りながら、ライフワークを続けていきたい。



(東南アジアのしあわせ研究員たち)

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



Musashino University Creating Happiness Incubation

武蔵野大学しあわせ研究所

東京都江東区有明 3 - 3 - 3

電話：03-5530-7730

メール：mhi@musashino-u.ac.jp